

玄界灘の海の幸をお返しに～漁師が海を綺麗にする、新たな仕組みを作りたい！



生命の源である海。私たち人間も海から大きな恩恵を受け共存してきました。しかし、今は海と人間の関係が壊れつつあります。普段から海と接する我々漁業者から見ても海洋ゴミは年々増え続け、温暖化や海洋汚染が進んでいる実感があります。かけがえのない海を守り、未来へ繋ぐ為、このプロジェクトを立ち上げました。

●はじめに

Sea+Sons は、未来へより良い海を残し繋いでいくために作った団体です。

メンバーは宗像の漁師を中心に集まった仲間たち。

先祖代々続く漁師の家系に生まれ、まき網漁や延縄漁を行っている権田幸祐・宗岡健一。

地域おこし協力隊として宗像に海女としてやって来た本田藍。

地元宗像で飲食店のコンサルティングや商品開発を主に行っている山田智宏。

地域イベントやコミュニティを運営している林山龍二。

それぞれの視点や想いを胸に、同じ目標を掲げ一致団結し一般社団法人シーズンズとして発足しました。

●海の現状

生命にとってかけがえのない存在である海。この場所は私たち漁師の生活圏でもあります。そんな海には既に1億5000万トンものゴミが存在しているといわれています。ゴミ収集車に積載すると3000万台分もの量になり、それらが並ぶと地球4周分の距離になります。

更に毎年800万トンものゴミが海に流出しているそうで、このまま行けば2050年には魚の量をゴミの量が上回るといった研究結果さえあるそうです。

その殆どが石油製品であり、これは回収しない限り半永久的に存在し続けます。

それらのゴミは年月と共に細分化してマイクロプラスチックへと変わり海に飽和します。

日本近海では世界平均の27倍程のマイクロプラスチックが存在していると言うデータもある程で、海洋国家である日本の海はゴミのホットスポットと言えるかもしれません。

また、近年はコロナ禍の影響で魚価が急落しています。漁業者の収入にもかなりの影響が出ている現状があります。また、魚が安い分、魚をより多く獲る必要があり、更に魚価を低迷させ、海の資源にも負担をかけてしまっている背景があります。そんな中、凧の日でも休漁を余儀なくされる事が沢山あります。休漁の代換え事業としてゴミ回収を目的とした出漁をし、漁業者の魚を取る事以外の収入に繋げ、海洋保全と海洋資源保護に繋がたいと考えています。

